

Title	編集後記
Sub Title	
Author	安藤, 広道(Andō, Hiromichi)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2019
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC review Keio University). Vol.6, No.1 (2019. 3) ,p.102- 102
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000006-0102

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

安藤広道

慶應義塾大学 DMC 研究センター副所長

文学部教授

DMC 紀要第 6 号をお届けします。

「デジタル知の文化的普及と深化に向けて」と題するシンポジウムも第 8 回目となりました。今年度は、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業が終了し、これまで駆け足で進めてきた MoSaIC を中心とするプロジェクトを振り返るいい機会になったと思います。そこで今回は、プロジェクトの発想の原点に立ち返り、メタデータの問題を取り上げることにしました。情報の蓄積と利活用において、メタデータに基づく情報の組織化は不可欠ですが、一方でそれは利用者の思考を縛ることにもなるある種の領域を形成してしまいます。その領域のボーダーをどのように乗り越えていくのか、熱い議論をご覧いただきたいと思っています。

当センターのプロジェクトのもうひとつの柱である MOOCs (FutureLearn) では、今年度も新たに The Art of Washi Paper in Japanese Rare Books と Exploring Japanese Avant-garde Art Through Butoh Dance の 2 コースを加えることができました。昨年度までの 4 コースの再配信も含め、ラインナップがさらに充実したことで、世界中で着実に受講者が増えています。本号では、今年度から研究員に加わった宮北剛己さんが、パブリック・ヒューマニティーズの観点から、学知を世界に開いていく MOOCs の意義と課題をまとめてくださいました。大学の国際的な情報発信力がますます重要になっている今日、FutureLearn プロジェクトには、塾内はもちろん塾外からも大きな期待が寄せられることになるでしょう。

本年度から、ヒューマンコンピュータインタラクションがご専門の杉浦裕太さんにも、DMC のメンバーに加わっていただきました。すでに各プロジェクトに新たな風を吹き込んでくださっています。一方、長年 MoSaIC プロジェクトにご尽力いただいた石川尋代さんが任期満了となります。この場をお借りしてこれまでのご貢献に感謝申し上げたいと思います。